

アサザ (ミツガシワ科) の大阪府茨木市・摂津市 における自生について

松本 仁*

Hitoshi Matsumoto: Distribution of *Nymphoides peltata* (Menyanthaceae)
in Ibaraki City and Settsu City, Osaka Prefecture

アサザ (*Nymphoides peltata*) は、池や沼などに生える多年生水草である。大阪府下の分布については、大阪植物便覧 (1929) には、池溝に分布すると記されており、田代ら (1938) には池沼にやや普通に分布するとある。しかし、堀 (1962) には、府下での野生は見当たらず、以前に東淀川区南方と堺市諏訪の森に分布していたとの記載があり、桑原 (1990) には、1927年と1934年の府下で採取された標本があるもののすでに消滅したとある。

著者は、1991年10月に大阪府茨木市・摂津市の大正川にアサザが分布していることを発見した。その後継続して観察を続けたところ安定した群落を形成していることがわかった。

大正川は、安威川の支流であり川幅約20mの河川である。写真1に生育地を示す。河床には所々にマコモなどの生い茂った中洲があり、流水域の河床はかなり平坦で、平常時の水深は50cm程度である。アサザは、パッチ状の大小の群落を形成している。アサザは、さかんに開花するタイプとあまり開花しないタイプがあるとされるが (角野, 1994)、本産地では多くの花が見られる (写真2)。図1に1991年10月の大正川における分布を示す。群落は大きさが10㎡より大きいかどうかにより二つに区別して示した。おおむね水深は浅いほうが群落が大きい傾向がある。

1934年の三木茂による摂津市正雀における標本があるが (桑原, 1990)、今回の大正川の産地は、正雀の東北に位置し約2 kmしか離れていない。

1996年1月に、大正川の自生地を観察したところ、図1の西沢良宜橋より南の河床が改修のためにすべて削り

とられ、アサザをはじめとするすべての植生が失われてしまっていた (写真3)。河床の状況から判断し1995年秋から冬にかけての河床改修によるものと思われる。残されたアサザの生育地を大切に守り続けてゆく必要があると考える。

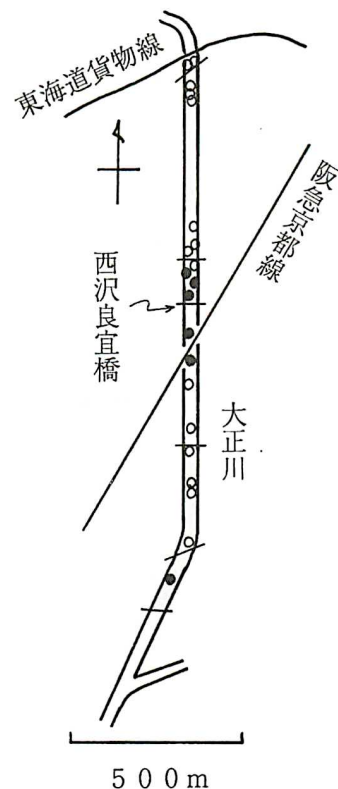


図1 大阪府茨木市・摂津市の大正川におけるアサザの分布 (1991年10月19日調査)。黒丸は10㎡以上の大きさの群落を、白丸は10㎡未満の群落を示す。

*大阪府吹田市千里丘上37-1-618

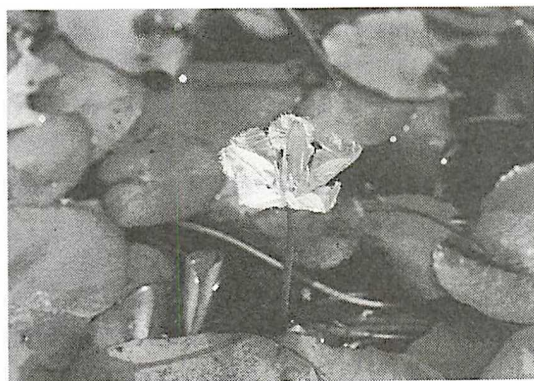
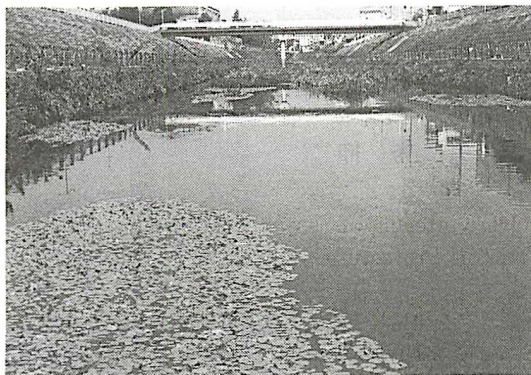


写真1(上) アサザの生育地の状況。パッチ状の群落が見られる(1991年10月19日撮影)。
写真2(下) アサザの花(1991年10月19日撮影)。



写真3 河床改修により植生が失われた大正川河床(1996年1月4日撮影)。

参考文献

- 堀 勝, 1962. 大阪府植物誌(増補改訂版). 六月社, 251頁.
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑. 文一総合出版, 140頁.
桑原正三, 1990. 大阪府植物目録. 近畿植物同好会, 32頁.
大阪博物学会, 1929, 大阪植物便覧. 積善館, 21頁.
田代善太郎・堀 勝, 1938, 大阪府植物誌. 柳原書店, 53頁.